START

重机/メロすごろく

『走れメロス』は 太宰治による短編小説。 初出は 1940 年に 発行された雑誌です

寝る

メロスは激怒した。

2マス進む

メロスは田舎で妹 と二人暮らし。 妹はもうすぐ結婚 します

妹の結婚式の買い 出しに町に出かけ ると、どうも町の 様子が怪しい…

通りすがりの年寄 りに話を聞くと 「王は人を殺しま す」と言います

メロスは王宮に行

マークのあるマス は本文の引用です。そのマス に止まったら、メロス気分で 文章を読んでみよう!!

聞いて、メロ

マス 進む

スは激怒した。 「呆れた王だ。 生かして置け Ø 1

家に帰る

マス進む

親友のセリヌンテ ィウスを身代りに 置いていくことに します

メロスは「3日待 って」と言いまし た。妹の結婚式を どうしてもやりた かったのです

王は怒ってメロス を殺すことにしま した

マス戻る

きますが、短剣を 持っていたために 捕まります

休み

起きて花婿を説得 し、妹の結婚式を します

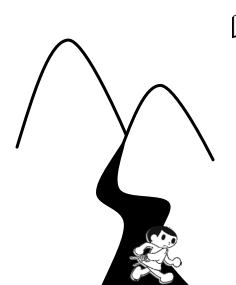
強い雨が降り出し ますが、結婚式は 盛り上がります

メロスは、一生こ のままここにいた い、と思った。

寝る

回休み

メロスは、ぶるん と両腕を大きく振 って、雨中、矢の 如く走り出た。



ありがとう、セ リヌンティウス。よく 私を信じてくれた。 君を欺くつもりは、み じんも無かった。信じ てくれ!どうでも、い いのだ。私は負けたの だ。だらしが無い。多 ってくれ。私は王の卑 劣を憎んだ。私は、永 遠に裏切者だ。正義だ

休み

私は、よくよく不 幸な男だ。

回休み

路傍の草原にごろ りと寝ころがった。

一回休み

よろよろ起き上っ

て、(中略) 水を

両手で掬って、一

くち飲んだ。

暑くなってきて、 疲れたメロスはや る気を無くします

マス戻る

山賊に襲われる。

何とか撃退するこ とができました

メロス間に合う。

メロス、川に飛び 込み、何とかその 川を渡り切ります

1マス進む

きのうの豪 雨で山の水源 地は氾濫し、 (中略) 木葉 微塵に橋桁を 跳ね飛ばして いた。彼は茫 然と、立ちす くんだ。

寝る

回休み

走れ!メロス。

セリヌンティウス が解放され、二人 で男泣きです 3マス進む

ひとりの少女 が、緋のマント をメロスに捧げ

「メロス、君は、まっ ぱだかじゃないか。」

勇者は、ひどく赤面した。

【参照】青空文庫 https://www.aozora.gr.jp/index.html 底本:「太宰治全集3」ちくま文庫、筑摩書房

1988 (昭和63) 年 10 月 25 日初版発行 1998 (平成10) 年 6 月 15 日第 2 刷

入力:金川一之 校正:高橋美奈子

すごろく作成:宮崎市立佐土原図書館 2019 年 11 月 2 • 3 日 佐土原総合文化祭